

幼・小の接続を重視した言葉の育ちを支える援助と 指導の在り方に関する考察

—読むことを中心に—

水戸部 修治

1. 研究の目的

幼児教育における言葉の育ちを支える手立ての在り方を考える上で、小学校国語科との接続は重要な視点となる。本論考では、特に「読むこと」に関わる言葉の育ちをいかに支援するか重点を置き、幼児教育における発達段階を踏まえた言葉の育ちを支える手立ての在り方について、小学校国語科との接続を視点として検討することを目的とする。

筆者はこれまで、小学校国語科の第1学年の学習指導案の分析を基に、幼児教育における言葉の育ちを支える援助の在り方を検討してきた。¹⁾（以下、前考察）具体的には平成29年3月に示された「幼稚園教育要領」（以下、新幼稚園教育要領）の言葉領域と「小学校学習指導要領」の第2章第1節国語（以下、新学習指導要領・国語）の第1学年及び第2学年の〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域の内容との関連性を明らかにした上で、小学校第1学年で実施された国語科の授業の学習指導案について分析し、小学校第1学年で具体的に必要となる国語の能力を明らかにするとともに、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域における幼児期の援助及び環境構成の在り方について考察を試みたところである。

しかし前考察では、各領域を網羅的に分析したため、幼児教育における援助の在り方について深い追究を行うことができなかった。また分析対象とした学習指導案は、新小学校学習指導要領・国語の全面実施前の移行措置の期間に実践されたものであった。そこで本論考では「言葉」領域の中でも特に「読むこと」に関わる内容に絞り込むとともに、新学習指導要領・国語の全面実施以降に作成された学習指導案を基に、小学校国語科から見た幼児期における言葉の育ちに関する援助の在り方を考察することとする。

2. 研究の方法

（1）分析対象とする小学校国語科学習指導案について

本考察において分析対象としたものは、2020年度に作成された小学校国語科の第1学年及び第2学年の「読むこと」領域の学習指導案である。筆者が共同研究を行っている小学校の学習指導案の中から、14篇選定した。「読むこと」領域に絞ったのは、前考察での検討を踏まえ、小学校国語科において、3領域の中でも指導上の課題が最も顕著に見られると考えるからである。また前考察では、2018年度から2019年度に実施された授業の学習指導案を対象としてきた。今回新たに対象としたのは新小学校学習指導要領・国語の全面実施以降において作成・実践された学習指導案である。²⁾このことにより、新学習指導要領下での授業実践を対象として考察を進めることができるものと考えた。また小学校国語科の学習指導要領が、2学年のまとまりで目標や内容を示していることに鑑み、第1学年に加えて第2学年の学習指導案についても対象とした。このことにより、学習指導要領の枠組みを踏まえて、より長期スパンでの指導を見通した考察ができるものと考えた。

（2）小学校国語科学習指導案を基にした分析と考察

「読むこと」に関する幼児教育における望ましい援助の在り方を考察するために、前項の学習指導案に見られる指導構想と授業内容を分析し、有効であると考えられる手立てを抽出していく。また併せて、幼児教育を踏まえ、接続する小学校低学年の国語科において、求められる「読むこと」の授業改善の在り方についても検討を加えていく。検討の中心はあくまでも幼児教育における援助の在り方の追究であるが、それらは小学校国語科の授業改善と相まって進められてこそ実効性のあるものとなると考えたからである。

3. 小学校第1学年及び第2学年における学習指導案に見られる指導の工夫点

（1）分析対象とする学習指導案の選定

前項で述べた通り、本考察においては、小学校国語科の第1学年及び第2学年の「読むこと」の指導に関わる学習指導案を収集した。またそれらの中から幼児教育において求められる援助の在り方を検討するため、以下の観点から収集した学習指導案から考察対象とするものを選定した。

①指導のねらいが明確であるもの

新学習指導要領・国語の内容に示す事項を踏まえて、当該単元で付けたい読む能力が明確に示されているものを選定した。その際、〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」の（1）に示す指導事項に加えて、〔知識及び技能〕（3）エの読書に関する事項をはじめとした、「読むこと」に関わる〔知識及び技能〕の事項を取り上げて目標設定している

ものも含めることとした。

②言語活動が明確であるもの

新学習指導要領・国語は、その教科目標の冒頭において「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」としている。すなわち国語科は、「言語活動を通して資質・能力を育成する」という基本的な枠組みを有していると考えられることができる。そのため、学習指導案に、当該単元で育成を目指す資質・能力を確実に指導するという意図をもって言語活動を明確に位置付けているものを考察の対象として選定した。

③主体的・対話的で深い学びにつながる学習過程の工夫がみられるもの

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が求められている。³⁾ この学びは上記①、②を確実に押さえた学習指導であると考えられるが、更に児童にとって魅力的な言語活動の遂行に向けて学びを進めていけるよう学習過程が工夫されているものを選定することとした。

(2) 選定した学習指導案の概況

前項の観点で選定した学習指導案の概要と、そこから考えられる小学校第1学年及び第2学年における「読むこと」に関する具体的な諸能力を一覧にしたものが以下の表1である。縦軸の項目のうち「育成を目指す能力」は、単元の指導目標の主なものを、学習指導要領の事項の記号を用いて示している。Aは〔思考力、判断力、表現力等〕「A 話すこと・聞くこと」、Bは「B 書くこと」、Cは「C 読むこと」の領域を意味している。「知」とあるのは〔知識及び技能〕の事項であることを意味している。「言語活動及び具体的学習内容」は、当該単元に位置付けられている言語活動と、単元の学習活動の概要を記している。「『読むこと』に関する具体的諸能力」は、当該単元で育成を目指す資質・能力のうち「読むこと」に関わる具体的な能力を抽出したものである。

表1：小学校第1・2学年国語科学習指導案に見られる「読むこと」に関する具体的諸能力

No.	単元名	育成を目指す能力	言語活動及び具体的学習内容	「読むこと」に関する具体的諸能力	実施時期
1	おすすめの本を紹介しよう	Cイ Bウ 知(3)エ	好きな昔話の内容を「よんでほしいなカード」に書きまとめて、紹介し合う。	・お話の好きなところを見付ける。 ・好きなお話を見付ける。 ・お話の内容の大体を紹介する。	第1学年1月
2	ようこそ!のりものはくぶつかんへ!	Cア、ウ Bウ 知(2)ア	教材文や図鑑を読み、お気に入りの乗り物のすごいところやそのわけをカードに書きまとめて紹介し合う。	・乗り物について書かれた図鑑や本を読む。 ・お気に入りの乗り物を見付ける。	第1学年1月

京都女子大学教職支援センター研究紀要（第3号）

				・乗り物のすごいところやそのわけを、乗り物の機能や構造を説明する言葉に着目して見付ける。	
3	お気に入りの昔話の「大好き」を友達に紹介しよう	Cイ, エ, カ 知(3)エ	日本や世界の昔話を読んで、自分の見付けた大好きなところを「お話大好きポケット」で紹介する。	・色々な昔話を読む。 ・昔話の大好きなところを見付ける。 ・大好きなところを紹介して楽しむ。	第1学年1 2月
4	むかしばなしをよもう	Cカ Bウ 知(3)エ	色々な昔話を読み、面白いところをペアで紹介し合う。	・学校図書館を活用し、色々な昔話を読む。 ・お話の面白いところを見付けてそのわけを話す。 ・お話の面白いところやそのわけについて、挿絵などにも着目しながらペアで紹介し合う。	第1学年1 2月
5	「むかしばなし大すきカード」でお気に入りの昔話の「大好き」を紹介しよう	Cイ, エ 知(3)エ	「むかしばなし大すきカード」でお気に入りの昔話の「大好き」を紹介する。登場人物の会話を想像して好きな場面の様子を説明する。	・絵本や物語を読み、内容の大体を捉える。 ・好きな場面を見付ける。 ・好きな場面の登場人物の会話を想像する。 ・好きなわけを人物の言動を手掛かりにカードに書く。	第1学年1 2月
6	おきにいりのほんのせんでんたいちようになって、大すきをつたえよう	Cイ, エ, カ 知(3)エ	大好きな昔話の面白いところを紹介し合う。 色々な昔話を読み、物語を読み、大好きなところをカードに書きため、そこから選んだ本の内容や好きなところをペアで紹介し合う。	・色々な昔話を読み、好きなお話を見付ける。 ・好きなお話の内容の大体を説明する。 ・選んだ本の好きなところやそのわけを、ペアで紹介し合う。	第1学年1 2月
7	聞いて、聞いて！ ぼくの・わたしの動物のすごいひみつランキング	Cウ, カ Bウ 知(3)エ	図鑑や科学読み物で動物の生態について調べ、すごいと思ったことやその理由を説明する。	・図鑑を読み、着目したい動物を見付ける。 ・生態について述べている文章に興味をもって読む。 ・動物のすごいところを見付けて読む。 ・すごいところを説明する上で重要な語や文を選び出す。	第2学年 10月
8	がまくんとかえるくんシリーズを読んでお気に入りの場面をペープサートで紹介しよう	Cエ, カ 知(3)エ, (1)カ	シリーズ作品の中から選んだお話のお気に入りの場面を1年生にペープサートで紹介する。	・シリーズ作品を読む。 ・シリーズ作品の中から好きなお話を選ぶ。 ・好きなお話のお気に入りの場面を見付ける。 ・登場人物の言動を想像し、お気に入りの場面をペープサートで演じる。 ・お気に入りの理由を明確にして紹介する。	第2学年 10月

幼・小の接続を重視した言葉の育ちを支える援助と指導の在り方に関する考察

9	だれがどのようなかわったかを考えて読もう	Cエ, オ, カ 知(1)ク, (3)エ	好きなお話の心に残ったところを「お話美術館」で紹介し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 好きなお話を選ぶ。 心に残る場面を見つけて読む。 心に残ったところの理由を考えて読む。 心に残ったところを紹介し合う。 	第2学年 11月
10	がまくん、かえるくんシリーズを読んで「お気に入り」を見つけてお話会で伝えよう	Cイ, エ, オ 知(3)エ, (1)カ	がまくん、かえるくんシリーズを読んで「お気に入り」を見つけてお話会で伝える。シリーズ作品の中から好きな作品を選んで、どこがどのように好きなのかを説明し合う。	<ul style="list-style-type: none"> シリーズ作品を読む。 シリーズ作品相互の共通点や相違点に着目して読む。 シリーズ作品から好きな作品を選ぶ。 好きな作品のお気に入りの場面を選ぶ。 お気に入りのわけを、登場人物の言動や挿絵を手掛かりに見付ける。 	第2学年 11月
11	1年生に、おもちゃまつりで動くおもちゃのハンドブックをプレゼントしよう	Cウ Bイ 知(2)ア	動くおもちゃの作り方について、教材文の説明の工夫を参考にして書きまとめ、1年生に渡す。	<ul style="list-style-type: none"> 順序に気を付けて内容の大体をつかむ。 作り方を説明する上でわかりやすい説明の仕方を教材文の文章から見付ける。 説明の仕方の工夫について共有する。 	第2学年 11月
12	とっておきのせつめい書を書いて、1年生にプレゼントしよう	Cウ Bア, イ 知(2)ア	おもちゃの作り方や色々な遊びについて、資料や文章を参考にしながら説明する文章に書きまとめ、1年生に読んでもらう。	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報は何かを考えて、資料や図鑑を読む。 1年生に向けて書く、という目的をもって必要な情報を見付ける。 説明する文章を書く際に生かしたい説明の工夫を見つけて読む。 	第2学年 12月
13	登場人物と自分を比べて読み、「それわかるわ！」ベスト3を発表しよう	Cエ, オ 知(1)オ	シリーズ作品を読み、共感できるところを見つけて紹介し合う。	<ul style="list-style-type: none"> シリーズ作品を読む。 実体験と結び付け、共感できるところを見つけて読む。 共感できるところについて説明し合う。 	第2学年 12月
14	交流している小学校の2年生の自分たちの遊びを紹介しよう	Cウ Aア 知(3)エ	遊びについて書かれた図書から情報を見付けて、交流している小学校の2年生の自分たちの遊びを紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> 説明する際に生かしたい表現の工夫を見付けて読む。 見付けた表現の工夫を生かして、自分たちの遊びを紹介する。 	第2学年 1月

(3) 学習指導案に見られる小学校第1学年及び第2学年の「読むこと」に関わる資質・能力の具体的な姿

①学習指導案の全般的な状況

選定した14本の学習指導案のうち、第1学年のものは6本。第2学年は8本である。実施時期がいずれも10月以降となっているのは、新型コロナウイルス感染症による休校措置等の影響で、年度の前半は研究授業がいずれの学校でも実施できなかったことによるものである。また、説明的な文章の指導が5本（第1学年1本、第2学年4本）、文学的な文章の指導が9本（第1学年4本、第2学年5本）となっている。「読むこと」を中心にした単元ではあるが、「話すこと・聞くこと」もしくは「書くこと」など他領域と組み合わせ、いわゆる複合単元が7本と半数を占めている。

No.11以外は、教科書教材のみならず、様々な物語や図鑑などを読む単元構成となっている。なおNo.11も、読む目的を明確にして学習指導を進めるものとなっている。

②説明的な文章の指導について

説明的な文章の学習指導案は、No.2, 7, 11, 12, 14である。

育成を目指す能力についてみると、いずれもCウの指導事項を取り上げているという共通点がある。これは説明的な文章の精査・解釈の指導事項であり、以下のように示されている。

（1）ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。

この指導事項について、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編」では、その趣旨を以下のように解説している。⁴⁾

文章の中の重要な語や文とは、（中略）読み手として必要な情報を適切に見つける上で重要になる語や文などのことである。

すなわち、無目的に教材文を読み取らせることを目指すものではなく、児童が主体的な読者として情報にアクセスする能力の育成を目指すものであることが分かる。莫大な情報が行き交う高度情報化社会にあっては、子供たちにこうした能力を育むことが重要になる。

またNo.2及び7では教科書教材の内容と関連付けて乗り物や動物の図鑑を読む学習活動が位置付けられている。No.12及び14ではおもちゃの作り方や鬼ごっこなどの遊び方について説明された図書を読み、内容や書き振りを参考にして自分で説明する学習活動が位置付けられている。新学習指導要領・国語では、それ以前までの学習指導要領と同様に、内容の（2）として言語活動を例示している。第1学年及び第2学年の「読むこと」では、説明的な文章の指導の際の言語活動として次のようなものが例示されている。

(2) ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。

(2) ウ 学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。

これらはいくまでも例示であるとされているが、こうした言語活動を通して、上掲の(1)ウのような「読むこと」の資質・能力の育成を目指すことが学習指導要領の基本的な枠組みとなっている。「読むこと」の能力を、実生活にも生きて働く言語の能力として児童に育むためには、単に教材文を与えて段落ごとに内容を捉えさせることにとどまらず、上掲のような言語活動を自在に行えるような能力の育成を目指すことが重要になる。

こうした点で、表1に掲げた学習指導案では、以下のようなことが重視されていると言えるだろう。

○図鑑や科学読み物などを興味をもって読む。

○図鑑や科学読み物の中の「すごい」「びっくりする」と感じるどころなど、自ら文章の中の情報に着目して読む。

○情報発信に向けて、必要な語や文を考えて選び出す。

○読んだ内容を生かして情報発信する。

実際の授業を見ると、児童が興味を膨らませて図鑑などを手に取ることができているかどうか成否の分かれ目になっていることが多い。特に学年が低くなればなるほど、興味・関心を持って文章を読めるようにすることが読む能力を高める上で重要な基盤となると考えられる。

③文学的な文章の指導について

文学的な文章の学習指導案は、No.1, 3, 4, 5, 6, 8, 9, 10, 13である。いずれも、教科書の教材文を場面ごとに読み進める指導ではなく、児童にとって魅力的な言語活動を明確に位置付け、関連する作品を読み、発信する学習が工夫されている。

指導事項として最も多く取り上げられているのは、Cエであり、No.3, 5, 6, 8, 9, 10, 13に位置付けられている。この指導事項は文学的な文章の精査・解釈に関するものであり、次の通り示されている。

(1) エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

すなわち単に内容を平板に読み取らせることを目指すものではなく、Cウと同様、児童が自ら場面の様子に着目し、想像して読むことを目指すものとなっている。これを具体化した学習活動として、No.3のように「日本や世界の昔話を読んで、自分の見付けた大好きなところを『お話大好きポケット』で紹介する。」など、自分の大好きなところ、心に残ったところを明確にし、それらを発信する活動が工夫されている。

こうした点で、表1に掲げた学習指導案では、以下のようなことが重視されていると言えるだろう。

- 自分の好きな作品を見付けて読む。
- 好きな作品のお気に入りの場面や心に残るところを見付けて読む。
- 好きなわけ、心に残るわけを考えて読む。
- 好きのところ、面白いところを友達と共有する。

説明的な文章の学習指導と同様、児童の学びの姿は、大好きな作品を手にして学びを進めることで、単に教材文を読み取らされる姿とは大きく変わってくる。多くの授業実践でこうした状況を見ることができた。

4. 小学校国語科学習指導案を踏まえた幼児教育における望ましい援助に関する考察

（1）主に説明的な文章を読むことに関わる手立てについて

前考察では、幼児への読み聞かせの対象として通常は絵本や昔話を選ぶことが多いのに対して、図鑑などについても読み聞かせの対象とすることの有効性やその具体的な方法について検討したところである。前述の（3）②の分析を基にすると、こうした手立てに加えて、「図鑑を使ってみる」とことと「図鑑を読むことを共有する」ことが有効であると考えられる。図鑑等に身近に接することができる環境構成の工夫が重要である一方で、幼児が自ら働きかけて図鑑に触れるような機会をつくることのできるからである。

「図鑑を使ってみる」こと具体例としては、以下のようなことが考えられる。

- かっこいい乗り物やおいしそうなお食べ物など、写真や図版を中心に、着目したい情報を見付ける。
- 生き物の飼い方を調べるなど目的を明確にし、教師に読んでもらうなど援助を受けながら必要な情報を見付ける。

また、「図鑑を読むことを共有する」こと具体例としては、以下のようなことが考えられる。

- ペアで図鑑を開いて、興味のあるページを見付け合う。
- ペアで図鑑を開いて、写真や図版を見て自由に話し合う。

(2) 主に文学的な文章を読むことに関わる手立てについて

小学校第1学年及び第2学年の授業実践の中では、好きな本が見つけられない児童がいることや、物語の中の好きな場面、心に残る場面を見つけられない児童がいることが課題となる状況が散見されている。こうした状況に対応するために、まずは教科書の教材文を一文一文時間をかけて意味を取らせねば、と考える指導するケースも見られる。数値的なデータを得るには至っていないが、こうした指導では、児童の姿はなかなか変容しないことが多い。むしろ前述のように、児童が「大好き」「お気に入り」といった実感をもって読み進める中で、そのわけを精読して確かなものにしたり、共有することを楽しんだりする姿が多く見られる状況がある。⁵⁾

前考察では、幼児に対する手立てとして読み聞かせを中心として、多様な絵本や物語に触れる環境構成の重要性について検討したところである。小学校でその能力を一層伸ばすことができるようにするためにも、幼児期においては、絵本や物語に親しみワクワクドキドキしながらお話の世界を楽しんだり、挿絵や読み聞かせの声に触発されて自由に想像を広げたりする読書体験をもたせることが非常に重要な基盤づくりになると考えられる。

またそのためには、教師による直接の援助に加えて、図鑑を読む際と同様に、ペアでページをめくりながら挿絵や物語の展開を楽しんだりすることも、絵本などに興味をもちにくい幼児に対して有効な手立てとなり得ると考えられる。

(3) 学習指導案の本時の学習指導過程から見た幼児教育において期待される手立て

①分析対象とする本時の学習指導案について

ここから、単位時間の学習活動の計画を基により詳細に検討していくこととする。

次に示すのは、前掲の表1のNo.5の学習指導案の本時の目標及び指導過程である。⁶⁾単元の指導計画全8時間の中の6時間目、自分の選んだ物語について、大好きな場面の理由や、その場面の登場人物の言葉を想像する学習である。下記の学習指導案について、幼児期における望ましい活動との密接な関連が想定できる箇所に○囲み番号を付し、その箇所に関して検討を試みる。

ア 本時の目標

“大好き”なところについて、登場人物の行動を中心に想像を広げて読み、登場人物の行動に合った言葉を選びながら、吹き出しの言葉を想像できるようにする。

イ 本時の指導過程

学習活動	主な教師の働きかけ（○）と予想される児童の反応（・）	※支援・留意点【】評価
<p>1. 前時の学習を振り返り、本時のめあてと学習の流れを確認する。</p>	<p>○前の時間には、友達と好きなどころの理由を交流して“大好き”などころを決めましたね。</p> <p>○学習のゴールは、「むかしばなし大すきカード」で昔話の好きなどころを紹介することですね。【①】</p> <p>その時に出てくる登場人物の会話も付箋で紹介しますので、今日は登場人物になりきって、会話をどんどん考えましょう。そして最後に吹き出しに書きましょう。</p>	<p>・前時の振り返りをした り、本時の活動を確認したりすることで、学習のゴールを意識して活動できるようにする。</p>
<p>「なりきり吹き出し」を使って、登場人物の会話を想像しよう。</p>		
<p>2. 「なりきり吹き出し」を当てて登場人物の会話を想像する。</p>	<p>○“大好き”などころの絵や文に「なりきり吹き出し」をあてながら、登場人物になりきって、会話をどんどん想像してみましよう。【②】</p> <p>・「うまく逃げられた」</p> <p>「危ない思いをしたけど幸せになれてよかった。」</p> <p>「勇気を出してよかった！」（ジャックとまめの木）より</p> <p>・「この前ねずみをしんじてくわなくてよかったよ」</p> <p>「ライオンをたすけることができてよかったです。」</p> <p>「小さいネズミなのにロープを切るなんてすごいな。」</p> <p>「食わずに逃がしてもらったので、恩返しできてよかったです。」（ライオンとネズミ）より</p>	<p>※「なりきり吹き出し」を使って口頭表現するとき、一言ではなく二言以上考えて表現するように伝えることで想像を広げて読めるようにする。</p> <p>※なかなか会話を想像することができない児童には、教師が実際に会話を考えて言って見せたり登場人物の行動を例に挙げて問いかけたりすることで、会話を想像して考えられるようにする。【③】</p>
<p>3. 考えた会話をペアで交流する。</p>	<p>○考えた会話を友達に伝えてみたいですか。では、自分の考えた会話を友達と伝え合いましよう。その時、聞いている友達是一言コメントを言ってあげましよう。【④】</p> <p>交流の流れ</p>	<p>※交流の仕方のモデルを動画で見ることで、スムーズに交流を行えるようにする。</p>

幼・小の接続を重視した言葉の育ちを支える援助と指導の在り方に関する考察

<p>4. 交流して書く と決めた会話を付箋に書く。</p> <p>5. 本時の振り返りをする。</p>	<p>① C1 大好きなところを伝える。</p> <p>② C1 自分が考えた会話を伝える。</p> <p>③ C2 一言コメントを言う。</p> <p>・C1「ぼくのだいすきなところは、ジャックがおにからにげきることができたところです。考えたセリフを聞いてね。」</p> <p>C1「うまく逃げられた」</p> <p>「危ない思いをしたけど幸せになれてよかった。」</p> <p>「勇気を出してよかった！」</p> <p>C2「言ってそうだね。こんなものもあるかもしれないよ。」</p> <p>「おひめさまと結婚できるなんてゆめみたい」</p> <p>C1「なるほど。ありがとう。」</p> <p>○交流して場面や登場人物にぴったりだと思った会話を付箋に書きましょう。【⑤】</p> <p>○今日は、登場人物がどんなことを言っているかを考えられましたね。次の時間は、「むかしばなし大すきカード」で“大好き”を伝え合ひましょう。今日の友達との交流で気になった本を朝読書の時間などに読んでみてくださいね。</p>	<p>・友達から一言コメントを言ってもらうことで、自信がもてたり、考えを深めたりする手立てとする。</p> <p>・まとめた「おはなし大すきカード」をつかって紹介する意欲を高められるふりかえりをするようにする。</p> <p>・もう少し交流したいと思う児童は引き続き交流を進められるようにする。</p> <p>【“大好き”なところについて、登場人物の行動を中心に想像を広げて読み、登場人物の行動に合った言葉を選びながら、吹き出しの言葉を想像して書いている。(Cエ)】</p>
----------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

②本時の学習指導過程から見た幼児教育において期待される手立て

ア 学習の見通しを立てる

【①】は単位時間の導入に際して、単元の最終ゴールである「『むかしばなし大すきカード』で昔話の大好きなところを紹介すること」と、そこに向かって本時は、「『なりきり吹き出し』を使って、登場人物の会話を想像しよう。」という学習の目当てを確認する場面である。「なりきり吹き出し」とは、白抜きのパウチした吹き出しの形のシートである。児童の手持ちとし、好きな場面の挿絵などに当てて、口頭で会話を想像する際に用いるツールである。ここでは何より、児童にとって魅力的なゴールが設定され、そこに向かって必然性のある目当てに取り組めるように指導が工夫されている。

幼児教育においては、こうした小学校段階での学習につながるように、幼稚園での遊びなどに取り組んで楽しかった、という実感をもてるようにすることや、物語や絵本の読み聞かせを聞いたりそれを基に想像を膨らませたりすることが楽しいという実感をもてるようにすることが重要になるものと考えられる。

イ 好きな場面に着目して登場人物の会話を想像する

【②】では、物語の大好きなところを見付けることと、その場面について登場人物の会話を想像することが求められる。

幼児教育においては、物語の読み聞かせを聞いたり図鑑を見たりすることを通して、好きなところ、面白いところ、びっくりしたところ、すごいと思ったところなどを見付けられるようにすることが大切になる。また、物語の読み聞かせを聞いたり、自ら読んだりする際、ストーリーを基に自由に想像する楽しさを味わうことが重要な体験となると考えられる。

ウ 個に応じた手立て

【③】では児童の個々の状況に応じた手立てを学習指導案上に位置付けている。幼児期においては家庭環境の影響を小学校よりも多く受けるため、一層幼児一人一人の状況や関心の在りようなどを見極めた援助が重要になる。

エ 好きな場面や想像した言葉を共有する

【④】には一人で読むだけではなく、共有して読む学習場面が重点的に位置付けられている。ここでは自分が伝えたい好きな場面やそこから想像した会話を、ペアで伝え合う。一人だけで学びが完結するのではなく、相手との交流によって児童個々の学びが充実していくようにする手立てである。

幼児教育においては、友達と一緒に読み聞かせを聞く、図鑑を開いて写真などを見るといった、共に過ごし、互いにやり取りする楽しさを十分味わえるようにすることが大切になる。また、最初はたどたどしい言葉であっても、色んな友達に繰り返し話すことによって徐々に自分の言葉を表出できるようにし、伝える楽しさや伝わるよさを味わわせていくことが望まれる。

オ 学習をまとめる

【⑤】は想像したことを書きまとめる場面である。本時の学習を踏まえて、次の学びに向けて、意欲をもてるようにすることとなる。

幼児教育においては、遊んで楽しかった、読み聞かせを友達と聞いて面白かった、といった思いを十分味わえるような言葉かけを工夫することが望まれる。

5. まとめ～幼児教育と小学校教育の接続を踏まえた「読むこと」の言葉の育ちを促す手

立てについて～

(1) 幼児教育において求められる援助について

子供たちが読む能力を身に付けていくためには、とりわけ自ら本や文章を選んで読み、必要な情報を見付けたり、大好きなところ、心に残るところを明らかにして、それを言語化して発信したりすることが重要になる。幼児教育においては、その基盤として多様な本や文章に触れる言語の環境構成を工夫するとともに、幼児が自然に本や図鑑に手を伸ばしたり、教師や友達と読んだ内容を共有したりできるような機会を多様に設定することが望まれる。そうした体験の蓄積により、小学校段階ではより目的を明確にして情報収集のために資料を読んだり、心に響く理由を明らかにしたりできるようになっていくと考えられる。

(2) 小学校国語科「読むこと」において求められる指導の在り方について

幼児教育において前項のような取組が求められる一方、小学校教育においては、そうした取り組みの効果を十分発揮できるよう、一層の授業改善が求められる。小学校での読むことの学習指導が、単に教材文の内容を読み取らせるだけであっては、幼児教育において多様で豊かな読書体験を有していても、それを読む能力として高めていくことは難しい。本論考で検討した学習指導案は、いずれも指導のねらいを明確にするとともに、言語活動や学習過程を児童が主体的な学びの中で読む能力を伸ばしていけるものとなるよう様々な工夫が凝らされていた。こうした小学校での授業改善の取り組みは一層重要なものとなる。

6. 展望

本論考においては、前論考での検討を踏まえて、「読むこと」に重点を置いて考察を進めた。今後はさらに、幼児教育の実際や、幼稚園、小学校の教師の意識をより精緻に把握した上で、より具体的な手立ての在り方を検討していくことが望まれる。

謝辞／付記

本論考は、科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号 17K04889 代表者：岡林典子「協同性の育ちに着目した幼小接続における音楽教育のプログラム開発」による研究成果の一部をまとめたものである。

また研究の実施に当たっては、共同研究を進めてきた小学校 13 校の質の高い学習指導案を検討対象とさせていただいた。ここに改めて感謝申し上げたい。

注

京都女子大学教職支援センター研究紀要（第3号）

- 1) 水戸部修治「幼児教育における言葉の育ちを支える手立ての在り方に関する考察～小学校国語科との接続を視点として～」『京都女子大学教職支援センター研究紀要』第2号，2020，pp.31-44
- 2)筆者との共同研究を進めてきた13校（うち1校は市教育委員会との共同研究）の教師が作成した，計14本の学習指導案を検討対象としている。学習指導案の作成過程において，授業実践者，所属校等の研究推進担当教員及び筆者が協同的に検討を行ったものである。
- 3)小学校学習指導要領（平成29年告示）の第1章総則第1の2他に規定。
- 4) 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編」，2017，p.71
- 5) 本論考で検討対象とした14本の授業の中でも，指導の工夫により児童の大きな変容が見られた実践が複数見られた。
- 6)学習指導案の作成と実践は，京都市立下京渉成小学校，伊藤直毅氏による。記して感謝申し上げます。

文献

山野てるひ，岡林典子，水戸部修治編著『幼・保・小 で役立つ絵本から広がる表現教育のアイデアー子供の感性を豊かに育むためにー』，2018，一藝社